

秋の東員 神仏の恵みを訪ねて

穴太駅～東員駅 約11K

2019年2月発行 北勢線の魅力を探る会



① 神田神社

初め八幡神社を産土神として、左右に春日神社、八坂神社が相殿として礼拝されていた。のち近隣の神社を合祀し、明治44年(1911)筑紫の春日神社を合祀した際、穴太村など6か村が合併した村名にちなんで現在の社名に改称。拝殿は嘉永3年(1850)の建立。

② 穴太薬師堂

平安時代中期の作と伝える、桧一木造りの薬師如来坐像(三重県有形文化財指定)が安置。この地の南にあった七堂伽藍の大寺に祀られていたものを、江戸時代に移されたと伝わる。

③ 途中橋

冤罪で放火犯にされた茂平が瀬古泉で火刑に処される日、桑名で真犯人が捕まった。大慌てで処刑の中止を伝えに来た役人が、藤川の袂で刑場の方から黒い煙が上がっているのを見て、刑場まで行かずに引き返したことからこの橋のことを「途中橋」と呼ぶようになる。

④ 白峰龍神

この地にあった大きな榎の根元に「白龍さん」の化身である白蛇が住んでいて、草一本とっても祟りがあると伝えられていた。ある時、迷信だからといって枝を払った人が病を得て苦しんだりしたので、丁重にお経を上げて貰って回復することが出来た。

⑤ 穴太山多井寺

古くは伊勢巡礼第29番札所のお寺。現在は無住となり、地区の方にお守りされている。鎌倉時代初期、藤原実重が頻りに奉加料や講料を寄進した記録が残る。本尊は行基作と伝える千手観世音菩薩。

⑥ 笹尾堂福泉寺

浄土真宗本願寺派。滝川一益との戦で敗死した山田城主青木安豊の子孫が堂守をしていた笹尾堂が始まりと伝えられ、寛文10年(1670)付の本尊木仏のお札が残され、其の時、寺号公称を許されている。

⑦ 瀬古泉神社

中心となる社は須佐之男命を祀る八坂神社で、相殿は天照大神を祀る和泉御厨神明社。明治41年(1908)瀬古村の山の神と天満宮、泉村の山の神と牛頭天王を合祀し瀬古泉神社と改称。

⑧ 花戸山遍崇寺

真宗大谷派。開基は天平年中(729~749)行基によると伝え、本は天台宗。明応年間(1492~1500)花戸城主坂太郎左衛門は戦に敗れ、当時、この地を布教していた蓮如の教えに帰依して本山に参詣、阿弥陀如来の絵像を拝領して帰郷、遍崇寺と名付けた。境内の経蔵には明治20年(1887)頃、第10世住職の花山大安師が研究資料として購入した明版大蔵経が所蔵されている。

⑨ 多奈閑神社(久米神社)

主祭神は天日鷲命(あめのひわしのみこと)。延喜式神名帳に「伊勢国員弁郡十座の内、多奈閑神社」とありますが、北勢町大字田辺に鎮座する同名の神社と何れとも決定されていません。なお、明治42年(1909)に旧久米村の3社を合祀(のち分祀)して翌年に久米神社と改称。

⑩ 慈恩山瑞応寺

臨済宗妙心寺派。文明年間(1469~86)妙心寺第十世景川宗隆(けいせんそうりゅう)の開基とされ、本尊の千手観音像は安阿弥(快慶)の作、平景清の持仏と伝えられる。長深城の三代目城主富永富輝は叔父春忠(別名池田入道)の乱暴に手を焼いて就寝中に殺害したが、その後は悪霊に悩まされた。そこで景川宗隆を招き、悪霊を鎮め、富永一族の菩提を弔うため、それまで中上の田辺にあった富春院をこの地に移し、瑞応寺と命名、富永家代々の菩提所と定めた。寺宝の景川禅師画像は三重県の文化財に指定されている。さらに当寺本堂には景川禅師の木像が安置されている。

⑪ 丸山地蔵堂

軒先の鐘に「伊勢国員弁郡 長深村 富春院 什物」と彫ってある。堂内は院殿号の位牌がいくつか祀られている。

⑫ 南松山大雲寺

浄土真宗高田派。観応年中(1350~52)国司太山高安の子で、京都東福寺で修行していた高吉が帰郷して南妻院を開山。滝川一益の戦火で当山も焼失、その時、本尊の救出が遅れたが、尊像は火中から飛び出して榎の枝に難を逃れたと伝えられている。寛永12年(1635)桑名に入封した松平定綱は本尊を参拝し、大運寺(のち大雲寺に改名)と命名して寺領を免許した。